

令和6年度事業報告書

救護施設

やしおみ荘

実施事業名			実施月	実施状況		主な実施内容
				参加人数	実施回数	
第1. 行事に関する事業			令和6年 4月 ～ 3月	3人		5月 19日 福島県障がい者スポーツ大会
				38名		6月 7日 市民総ぐるみ運動 男性27名 女性11名
				全員		8月 6日(女性) 7日(男性) 荘内マルト買い物
				12名+21名		9月 17日 日帰り旅行近距離 25日 日帰り旅行遠距離 男性8名 女性4名 男性14名 女性7名
				全員		10月 2日 日帰り旅行代替え食事会 男性41名 女性32名
				全員		9月 秋まつり
				全員		12月 18日 クリスマス会 30日 忘年会
				全員		1月 30日 新年会 2月 11日(男性) 12日(女性) 荘内マルト買い物
第2 生活支援に関する事業	利用者・職員との懇談会		4月～3月 隔月	利用者代表 1回平均 11人	4回	利用者様から要望・苦情をあげてもらう事で、利用者様に対する職員の対応、利用者間のトラブルの解決に向けて検討し、生活環境の改善を図るのに役立てる事ができていた。
	作業活動支援	農作業・園芸	4月～3月	農作業 1日平均 8.4人	(稼動) 1日平均1.1時間	畑の整備や季節に応じた作付けを行った。収穫した作物を食事に提供してもらったり、作物を育てる喜びが作業意欲に繋がった。 ・作物:スナックえんどう、ジャガイモ、ナス、トマト、キュウリ、スティックブロッコリー、カボチャ、トウモロコシ、オクラ、にんじん、絹さや、ミニトマト、里芋 ・畑の整備 種まき 苗植え 草刈り 畑おこし 収穫
				園芸 1日平均 8.8人	1日平均 0.8時間	花壇を利用し草花を育てた。 ＊花壇整備 花の苗植え 草刈り等実施 中庭の整備、苗植え、肥料やり、除草等、花を育てる過程は結構あったが、職員から手入れすることの大切さを教えられる事で除草を苦にすることなく行う事ができていた。手入れをしたことで色とりどりの花が咲き、職員や利用者から褒められることで作業継続意欲に繋がっていた。

実 施 事 業 名		実 施 月	実 施 状 況		主 な 実 施 内 容
			参加人数	実施回数	
生 活 支 援 に 関 与 す る 事 業	日常生活動作（ADL）支援	排 泄	支援対象者 男性平均 7.2名 女性平均 15名 ※1	月 平均 19.9回 ※1	便器のまわりを汚さぬように排泄 水を流す 手洗い ※男性利用者は拭き取り困難にて支援ではなく、清拭全介助にて対応。 ・車椅子の方には、身障トイレにて介助実施。 ・重度な利用者に関しては、ベッド上全介助にて実施
		洗 顔	支援対象者 男性平均 10.3名 女性平均 12名 ※1	月 平均 19.9回 ※1	参加声掛け タオルで顔を拭く 鏡を見て確認 ・見守りと一部介助を要する支援が主だった。全介助の利用者も数名。
		歯みがき	支援対象者 男性平均 10.3名 女性平均 13名 ※1	月 平均 19.9回 ※1	参加の声掛け 歯を磨く(前・奥・右・左・裏) 口をすすぐ 歯ブラシを洗う 口の回りを拭く コップを洗い拭く ・磨き方支援を要した。
		ブラッシング	支援対象者 丸刈り以外 ※1	月 平均 回 ※1	ブラシの当て方 髪をととのえる 確認 ・主に女性が実施。 ・該当者はいないが、必要に応じて実施した。
		ひげ剃り	支援対象者 男性平均 12名 ※1	月 平均 19.9回 ※1	ひげを剃る(左・右・鼻の下・顎) 鏡を見て剃り残しの確認 髭剃り機の掃除 ・自分で行った後、そり残しを職員が介助。
		入 浴	支援対象者 男性平均 9.2名 女性平均 17.8名 ※1	月 平均 8回 ※1	洗髪 髪をすすぐ(拭く) 洗顔 体を順序よく洗う 泡を流す 適切な入浴時間(湯舟) 上がり湯をかける 体を拭く 衣類の着脱(整頓) 汚れ物を洗濯に出す
		食 事	支援対象者 男性平均 0.2名 女性平均 1名 ※1	月 平均 19.9回 ※1	主副食バランスよく食べる かきこまずによく噛んで食べる 適切な時間 偏食をしない 新型コロナウイルス感染症対策として、体制を2部制の形で実施。
		利用者様の年齢、能力・障害に応じて支援をする事に心がけた。			

※1・・・全介助者含む

実 施 事 業 名			実 施 月	実 施 状 況		主 な 実 施 内 容	
生活支援に 関与する 事業と 交流	機能維持活動	理学療法 (P・T)	11月～3月	療対象者 23 人	月平均 2回	・理学療法士と再度連絡を取り、利用者の状況確認と、活動頻度などを話し合い 11月より活動を再開した。 理学療法士によるPT療法 ・言語聴覚士が見つからず、実施できず	
		言語療法 (S・T)		療対象者 0人	月平均 0回		
	ボランティア受入	馬上理容所	4月～3月	1回当たり平均 5名		男性散髪 - 自力歩行ができ排泄や体調面、行動面に問題がない利用者 男性散髪 歩行や体調面に配慮が必要な利用者 ※コロナにて9月は実施できず 女性カット 歩行や体調面に配慮が必要な利用者が 主に利用 女性カット 荘内での散髪と店舗での散髪・髪染め	
		出張カット ハビネス		1回当たり平均7.3名			
		久野美容室		1回当たり平均 16名			
		髪結い処Begin		1回当たり平均 13 名			
	地域との交流	ボランティア来荘	4月～3月	行 事 0人 ・秋まつり等行事を実施したが、新型コロナウイルス予防のため、外部からのボランティア受入れは実施しなかった。		市民総ぐるみ運動(6月・10月) ※6月は施設敷地内のゴミ集めや草むしりを実施したが、10月は天候不良により実施しなかった。 日課の中で町内を散策しながらゴミ拾いを行い、地域貢献に努めた。 遠野在住のO氏所有の果樹園の除草作業へ参加している。 障害者の日記念行事(12月) ・年間を通して、個人外出が可能な利用者には施設長の許可のもと、遠野町内のみの外出を認めていた。(買い物、散歩、ランニング) ・1月の新年会は、自力歩行可能な利用者と八幡平やまたまやで実施した ※荘残りの利用者は八幡台やまたまやからの仕出し弁当で対応した。 上遠野小学校との交流 やしおみ荘へ行こうの開催 ※新型コロナウイルス感染症対策の一環として、い 遠野保育園との交流 ずれの活動も中止していたこともあり、各学校との日 地元銀行内、利用者作品展示 程調整難しく、実施できなかった。	
		公共施設の清掃	4月～3月	対象 自力歩行可能な 利用者	年2回		
		地域活動への参加	4月～3月	対象 自立者のみ	月に15日程度		
				出展のみ	年1回		
		地域への外出等	4月～9月	対象 希望者	希望日		
				対象者 自力歩行な利用者	年1回		
		施設の社会活動	4月～3月	対象 利用者全員	年0回		
	環境整備 (施設内・外)	4月～3月	対象 利用者全員	適宜	窓ふき・換気扇・エアコンフィルター掃除 ・側溝の掃除 年齢、障害に配慮して実施した。 ※新型コロナウイルス感染症対策の一環として、荘内の消毒作業。		

実施事業名		実施月	実施状況		主な実施内容
			参加人数	実施回数	
生活支援に関する支援	残菜嗜好	9月 2月	対象(利用者様)期間(2週間)	年 2 回	残菜調査(食事毎に残菜状況を調べ傾向を調査) 嗜好調査(食べた食事について、味付け・好き・嫌いをアンケートで回答、傾向を調査) 嗜好を把握することで、メニューに活かす事が出来た。
	支援計画・モニタリング	支援計画 3月 モニタリング 9月 3月 (達成度により適宜)	全員対象	年 1 回 年 2 回	モニタリングを基に、利用者様の意見を聴きとりし個別支援計画を策定した。 個別支援画を基に支援した結果を評価し、個別支援計画に反映させた。
	所持品	適宜		適宜	不用品の整理、季節ごとの衣類の出し入れ、収納の確認
第3. 研修に関する事業		施設内	・ 障がい者虐待防止研修(基礎)7/29～8/30動画視聴		
		施設外	・ いわき集団給食研究会総会 4/18 ・ 勿来地区集団給食研究会総会 5/9 ・ 社会福祉施設等職員初任者基礎研修 5/21(オンライン) ・ 相談者支援(障がい者ケアマネジメント)従事者養成研修 6/1/～6/18 ・ アンガーマネジメント研修 ～福祉職員としていきいきと働き続けるために～ 6/25 ・ 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 障がい児者福祉施設協議会 第1回調査委員会 7/12 ・ いわき集団栄養給食研究会 7/25 ・ 障がい者福祉施設等職員基礎研修 8/2 ・ リスクマネジメント研修～施設に求められるコンプライアンスと情報管理～ 8/9 ・ 第54回東北地区救護施設研究協議大会 8/30 ・ 福島県サービス管理責任者等基礎研修 9/5 ・ 福島県サービス管理責任者等基礎研修 9/26～9/27		
第4. 会議および監査に関する事業		月	経営者会議 給食会議 職員会議 スーパー会議 リスクマネジメント検討委員会 施設内権利擁護委員会会議		
		年	内部監査 権利擁護委員会第三者委員との懇談会 法人権利擁護委員会会議 次年度事業策定会議 個別支援策定会議 感染症対策委員会		

実 施 事 業 名	実 施 月	実 施 状 況		主 な 実 施 内 容
		参加人数	実施回数	
第5. 防災・保安に関する事業		避難訓練 (日中・夜間/火災・地震・水害想定) 全員対象 月 1 回 (講話含む)		総合防災訓練 : 年 1 回 ・消防用設備自主点検 : 月 1 回 消防用設備点検 : 年 1 回 ・ボイラー設備の点検 : 2 回(随時) 訓練、点検を定期的に実施し防災に努めた。総合防災訓練では、消火訓練・心肺蘇生の訓練を実施した。※総合防災訓練と消防用設備点検は3月にも実施予定であったが、暴風警報・雨天にて行わず
		第6. 保健衛生に関する事業	4月～3月	嘱託医来診 : 年 24 回 精神科医来診 : 年 13 回 血圧体重測定 : 毎月実施 バイタルチェック : 入浴前毎日実施 朝等適宜実施 検便 : 年1回 5月 : 内科検診(利用者) 7月 : 検尿 (利用者) 7月～3月 : 健康診断(職員) 8月 : 健康診断(利用者) 11月 : インフルエンザ予防接種実施(利用者・職員) 12月 : 新型コロナワクチン接種実施 12月 : 検便 3月 : 胃がん検診 ※定期的に受診、バイタル測定をすることで、健康状態の変化を把握することができた。
1セーフティネット機能 ・緊急一時保護対応:女性1名、男性5名の6名が利用し、入所、出身地戻りとなった。コロナの影響は未だ見られているが、利用の問い合わせは去年より多かった。 2中間施設としての役割:コロナウイルス感染症が多少落ち着きを見せたことで、関係機関等からの利用受け入れ相談と、入所利用者様の高齢者施設移行について活動を再開した。 <取り組むべき重点課題> 1サービスの質の向上の取り組み ○権利擁護、リスクマネジメント委員会を活用し、QOLの向上に努めるについて 権利擁護委員会、リスクマネジメント委員会を中心として、利用者の困りごとや要望、リスク等に対して解決を図ってきた。 ○障害者虐待防止法について 毎月接遇に対するアンケートを実施し、各職員が利用者様へ言葉使いを含めての対応についての振り返りを実施。 2地域福祉サービスの取り組み (1)居宅生活訓練事業について 男性60歳代2名で実施したが、うち1名が居宅生活継続困難となり年度途中2月で終了となった。別の1名も今年度で終了となる予定。 (2)余暇活動と地域への参加(QOL)について ・秋まつりでの保護者参加や、荘内で行うマルトの買い物に地域の方も参加を呼びかけた。しかし、買い物に関しては地域の参加者はかなり少なかった。 (3)関係機関との連携強化 コロナウイルス感染症の影響はあったが、出来るだけ連絡等は密にしていた。 3高齢者重度化と施設の老朽化への対応 ・施設への移行については、コロナウイルス感染症の影響もあり自粛していたが、関係者と連絡を取るよう努めた。 ・利用者様に快適に過ごして頂くために建物内外の修繕等を実施する事で、より良い環境の提供に努めた。				